

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

福島県 西郷村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	83.24	96.81	2,592	

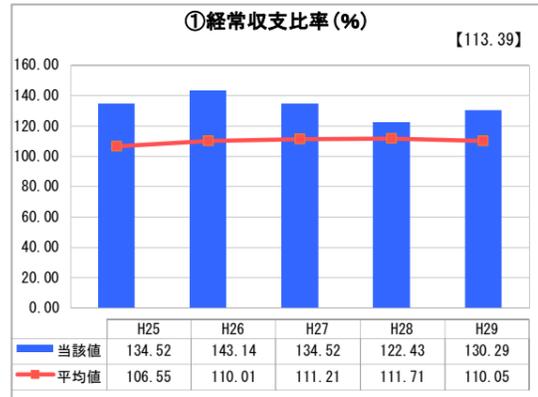
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
20,116	192.06	104.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,396	66.20	292.99

**グラフ凡例**

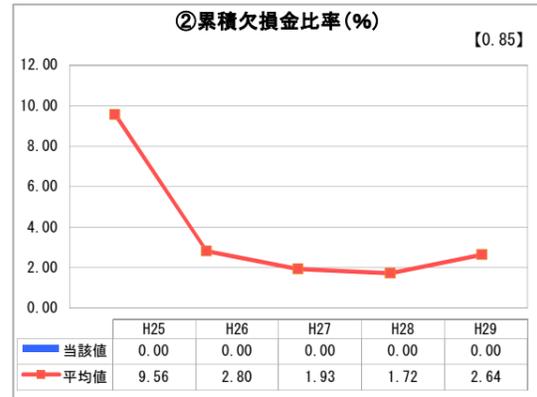
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成29年度全国平均

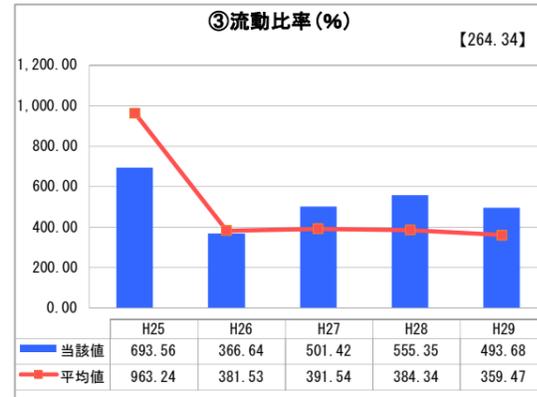
## 1. 経営の健全性・効率性



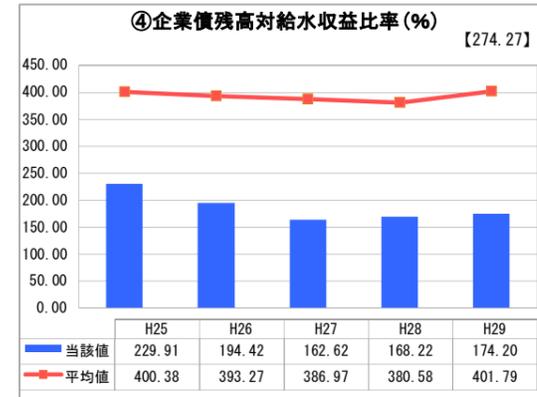
「経常損益」



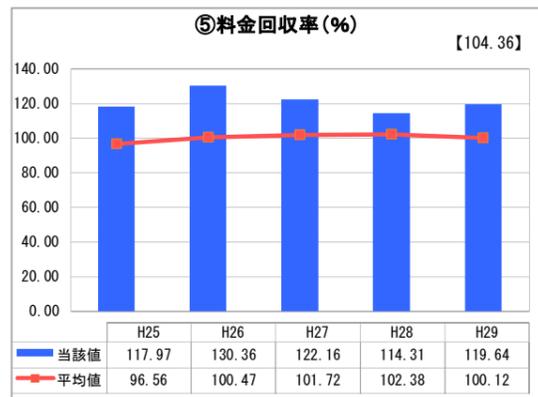
「累積欠損」



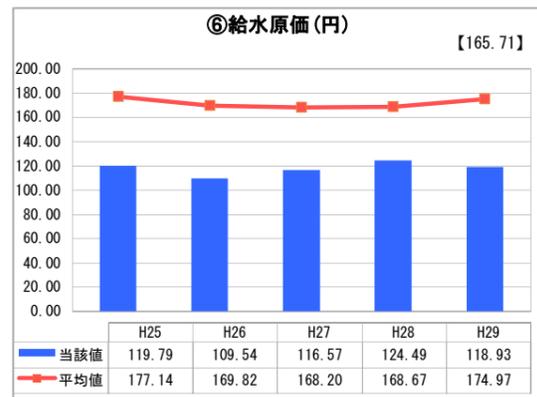
「支払能力」



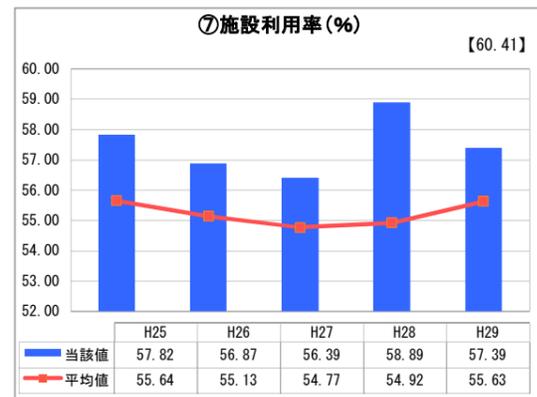
「債務残高」



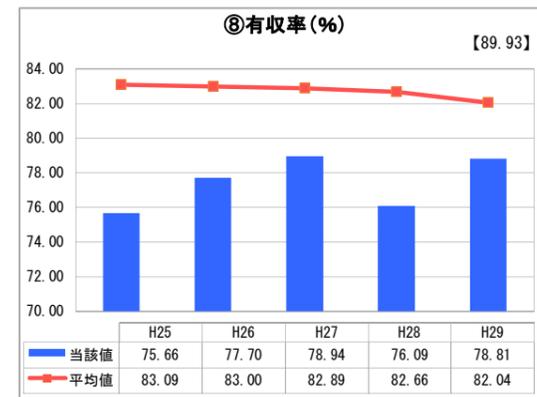
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

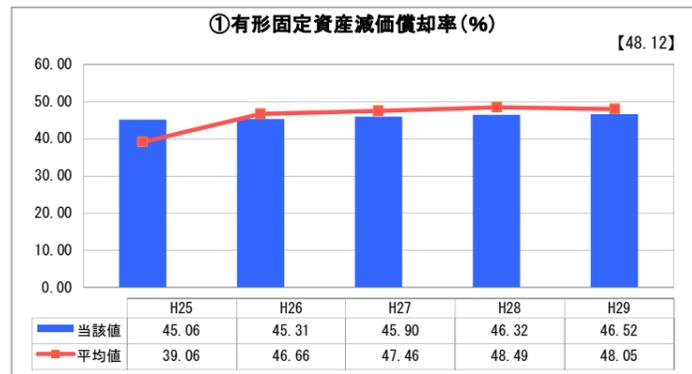


「施設の効率性」

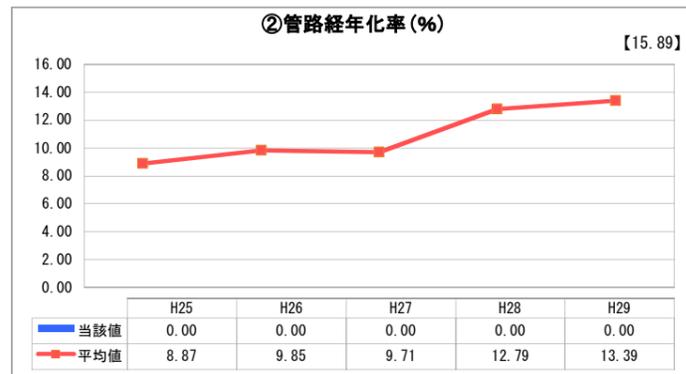


「供給した配水量の効率性」

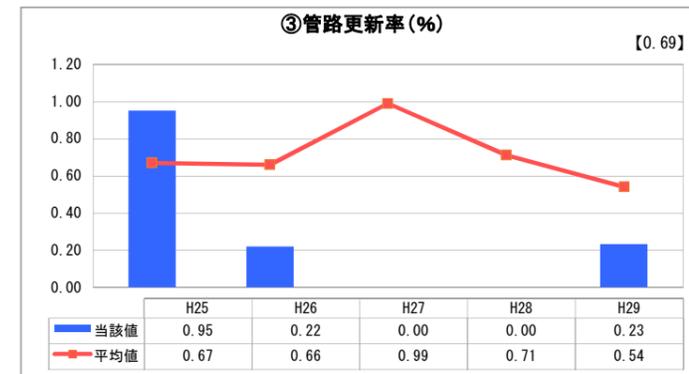
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率及び料金回収率は、類似団体を上回っており、また累積欠損金の発生していない状況から全体的に健全な経営状況にあるといえる。流動比率は平成26年度までは減少していたが、平成27年からは増加傾向にあり、人口増加に伴う料金収入等の増加が要因と考えられる。また、企業債残高については、微増傾向にあるが、これは新たな配水池築造計画に基づく管路等の整備のための借入を行っているためである。施設利用率については、類似団体を上回っており、施設を効率的に活用している状態にあると考えられる。また、有収率については類似団体を下回っているため平成28年度より有収率向上対策を実施したことから早速、平成29年度に効果が見られた。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は類似団体と同程度であるが、微増傾向にあり資産の老朽化が進んでいる状況にある。管路経年管は残存していないが、更新間近な管路については、アセットマネジメントの結果を基にした計画的な改良・更新を図っていく必要がある。

### 全体総括

経営の健全化・効率性については、概ね良好であると考えられる。また、老朽化については、有形固定資産減価償却率が微増傾向にあることから、優先順位や投資規模等を考慮しつつ、施設の改良・更新を進め、施設の効率性を高めながら、将来の運営体制や投資のあり方について検討していく必要があると考えられる。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。